



英語民間試験について

11月5日（火）

既に報道等でご承知の通り、11月1日に萩生田文部科学大臣から令和2年度から導入予定の「大学入試英語成績提供システム」の見送りが発表されました。本校でも「共通ID発行申込」準備をしていましたが、取りやめました。新たな英語試験は、令和6年度実施の試験から導入となりました。大変大きな変更です。現在の高校2年生を中心に大学受験を目指す若者は大きな衝撃を受けていると思います。

今朝のSHRにおいて、級監から改めて説明し、動揺しないように呼び掛けてもらいました。いずれにしても英語は大学入試において主要科目であることには変わりはありません。また、今まで勉強してきた「読む・聞く・話す・書く」4技能は、語学学習の基本です。無駄になることは無いと信じます。本校で推進する「光プロジェクト」の一つIGP（為桜グローバルプログラム）でも英語力を充実させることに重点を置いています。今後どのような形式になっても対応できる基礎力・応用力を育成していきます。また、生徒諸君や保護者の皆様の不安解消につながるよう今後の情報収集にもあたっていきます。

私も教科は英語なので、以前から今回の英語民間試験には大きな関心を抱いてきました。関連書籍を読んだり、研修会にも参加したりして勉強していました。実施に対して危ぶむ声や意見には、特に敏感になっていました。全国校長会でも延期の申し入れをしていたのをご存じの方も多いと思います。文部科学大臣を筆頭に、最近まで予定通り実施という方針を堅持しているように思っていたので、今回の発表には驚きました。しかし、変更が発表された以上は、その方針に則って対策を立てていかななくてはなりません。以前にもまして、生徒のためになるよう活動していきたいと考えます。